

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】(中学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	屋久町立岳南中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 10
学級数	1	1	1	0	3	
生徒数	29	40	29	0	98	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人の学力と意欲を伸ばす学習指導  
～少人数指導・習熟度別指導を通して～

2. 研究の内容と方法

(1) 実施学年・教科

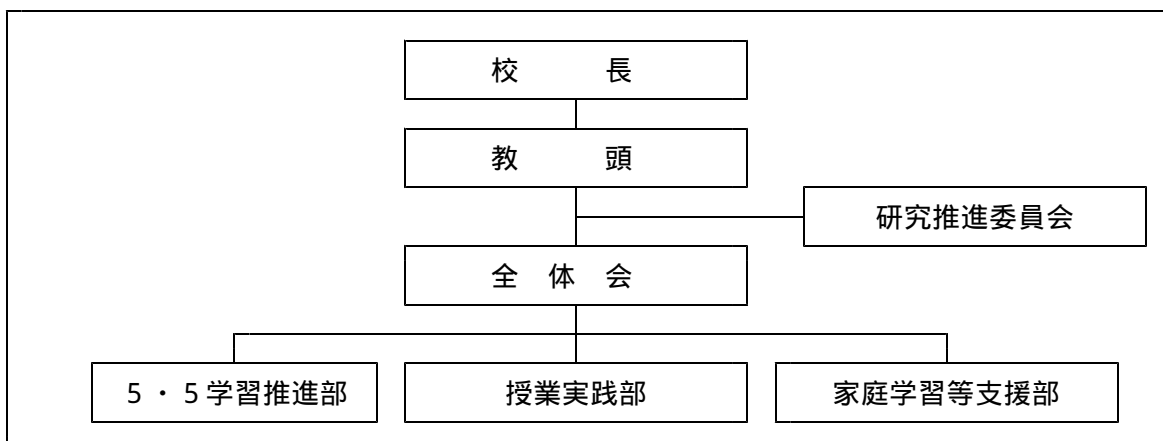
- ・ 1年～3年生・数学  
標準学力検査や定期テスト等の結果からみても、低学力の生徒が多いことと、生徒の理解の状況の差が大きい教科であるため。
- ・ 1～3年生・英語  
生徒の理解の状況の差が大きい教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「NRT」、「定期テスト」等による一人一人の学力の実態把握・分析</li> <li>・ TT指導, 少人数指導, 習熟度別指導の実施, 指導方法と指導体制の工夫・改善(数学科・英語科)</li> <li>・ 研究授業の実施(相互参観授業)と指導法の改善 相互参観授業・・・授業のない時間の教員が他の教師の授業を参観し, 互いに指導力の向上を図る。</li> <li>・ 基礎学力定着ドリル「5・5学習」の継続実施(国語科・数学科・英語科) 5・5学習・・・朝自習内の5分間と帰りの学活の5分間で基礎学力「読み・書き・算」の定着を図る時間</li> <li>・ 補充的・発展的な学習のための教材開発と蓄積</li> <li>・ 評価規準・基準の作成と評価の実践</li> <li>・ 小・中連携による授業を通じた指導方法の改善</li> <li>・ 実践研究成果の他学校への普及</li> <li>・ 研究のまとめ(1年次の成果と課題)</li> </ul>
--------	---

平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度を踏まえた「NRT」、「定期テスト」等による学力の実態把握・分析</li> <li>・ TT指導, 少人数指導, 習熟度別指導の実施(数学科・英語科)</li> <li>・ 研究授業の実施(相互参観授業)と指導法の改善</li> <li>・ 基礎学力定着ドリル「5・5学習」の継続実施(国語科・数学科・英語科)</li> <li>・ 補充的・発展的な学習のための教材開発と蓄積</li> <li>・ 評価規準・基準に基づく評価の分析と改善</li> <li>・ 小・中連携による授業を通じた指導方法の改善</li> <li>・ 実践研究成果の他学校への普及</li> <li>・ 研究のまとめ</li> <li>・ 研究の公開</li> </ul>
--------	--

### (3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- ・ 生徒一人一人のより詳しい実態把握が可能になり、生徒の実態に応じた教材開発と指導方法の改善が図られつつある。
- ・ 生徒一人一人に目が届きやすくなり、生徒の学習状況が把握しやすく、きめ細かな指導が可能になるとともに、個別指導に時間をかけられようになった。
- ・ TT指導により、多様な学習形態の工夫や分担した指導が可能になった。
- ・ 習熟の度合いが同じ程度の生徒が集まった中で授業が展開されることにより、発表や質問がしやすい雰囲気になり、一人一人の活躍の場が増え、意欲的な取組が見られるようになってきた。

#### 2. 今後の課題

- ・ 研究推進委員会を中心に、研究組織をさらに機能させ、研究内容を充実・深化させる。
- ・ 研究授業や授業研究を通じた指導技術の更なる向上を図る。
- ・ 学習内容をより定着させるための家庭学習の習慣化を図る。
- ・ 習熟度によるコース編成をどの時点で何を基準に行うこと適切かを研究する。
- ・ 各コースにおいて、達成目標をより明確にし、指導内容の精選と充実を図る。
- ・ 評価方法・評価規準や評価基準を検討する。
- ・ 定期テスト等、評価問題を工夫・検討する。
- ・ 成果を確認するための評価をどうするか。

学力把握のための学校としての取組

- ・ 「NRT」、「定期テスト」等による一人一人の学力の実態把握・分析
- ・ 単元テストの実施、分析
- ・ 基礎学力定着ドリル「5・5学習」の実施、分析
- ・ ポストテストの実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

町学力向上対策委員会や町教科部会において、本校の研究の取組や成果(生徒の変容)を発表する。  
小・中連携による研究授業・授業研究を実施し、個に応じた指導方法や指導体制のさらなる工夫改善を図る。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

【新規校・継続校】	1 5 年度からの新規校	1 4 年度からの継続校		
【学校規模】	3 学級以下 7 ~ 9 学級 1 3 ~ 1 5 学級	4 ~ 6 学級 1 0 ~ 1 2 学級 1 6 学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T . T による指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	